

幌延深地層研究センターの状況

1. 研究坑道掘削工事関係

(1) 作業状況

立坑掘削作業

- ・ 東立坑(掘削深度 380.0m):維持管理
- ・ 換気立坑(掘削深度 380.0m):維持管理
- ・ 西立坑(掘削深度 365.0m):維持管理

水平坑道掘削作業

- ・ 深度 140m調査坑道(掘削長 186.1m):維持管理
- ・ 深度 250m調査坑道(掘削長 190.6m):維持管理
- ・ 深度 350m調査坑道(掘削長 757.1m):維持管理

2. 調査研究関係

(1) 幌延深地層研究計画

必須の課題

1. 実際の地質環境における人工バリアの適用性確認
 - ・ 人工バリア性能確認試験:継続実施
 - ・ 人工バリア解体試験施工:継続実施、模擬オーバーパックの試験体取出し工(8/30~)
 - ・ 微生物・有機物・コロイドを対象とした物質移行試験:ボーリング孔掘削、装置設置、データ回収(9/7~9/17)
2. 処分概念オプションの実証
 - ・ 操業・回収技術等の技術オプションの実証、閉鎖技術の実証:エネ庁受託研究(地層処分施設閉鎖技術確証試験、回収可能性技術高度化開発)にて継続実施
3. 地殻変動に対する堆積岩の緩衝能力の検証
 - ・ 地下水の流れが非常に遅い領域を調査・評価する技術の高度化:エネ庁受託研究(岩盤中地下水流動評価技術高度化開発)にて継続実施

地層科学研究(必須の課題への対応に必要なデータ取得)

1. ボーリング孔を用いた地下水長期モニタリング
 - ・ 水圧モニタリング:継続実施(HDB-2,3,5,6,7,9 孔 PB-V01 孔)
2. 高精度傾斜計を用いた地盤挙動のモニタリング
 - ・ 高精度傾斜計による計測:継続実施
3. 深度 140m,250m,350m 調査坑道における調査研究
 - ・ 地球化学モニタリング(深度 140m 調査坑道):継続実施
 - ・ 水平坑道掘削影響試験(深度 140m,250m,350m 調査坑道):継続実施
 - ・ 地震観測(深度 250m,350m 調査坑道):継続実施
 - ・ 掘削影響試験(深度 350m 調査坑道):継続実施
 - ・ 水圧・水質モニタリング(深度 350m 調査坑道):継続実施
4. 光ファイバー式変位計による岩盤変位計測:継続実施

(2) 共同研究

- 地層の研究に関する研究協力協定(幌延地圏環境研究所):継続実施
- 地下施設建設時の坑道掘削影響領域の調査技術に関する研究(電中研):継続実施

施

炭酸カルシウムのコンクリーション化による地下空洞掘削影響領域のおよび水みち割れ目の自己シーリングに関する研究(名古屋大学):継続実施

地下水中の微量元素と有機物を対象とした地球化学研究(京都大学・東北大学):継続実施

実地下水中のコロイドへの核種の収脱着メカニズムに関する研究(電中研):継続実施

断層中のメタンガス高精度検出に関する共同研究(深田地質研究所、東京大学):継続実施

海陸連続三次元地質環境モデルの妥当性の検証に向けたデータ取得手法の高度化(産業技術総合研究所):継続実施

堆積岩を対象としたバリア性能に関する安全評価研究(東海大学):継続実施

堆積岩を対象とした EDZ の透水性変化計測に関する研究(京都大学):ボーリング孔掘削、試験装置設置(9/6~9/10)

ボアホールジャッキ試験による岩盤の初期応力測定手法の適用性に関する研究(安藤・間):継続実施

坑道閉鎖措置に関わる研究(原子力規制庁):継続実施

スパースモデリングを用いた弾性波トモグラフィ解析手法の研究(東京工業大学・サンコーコンサルタント):継続実施

(3) 受託研究

ニアフィールドシステム評価確証技術開発(エネ庁):継続実施

岩盤中地下水流動評価技術高度化開発(エネ庁):継続実施

地層処分施設閉鎖技術確証試験(エネ庁):継続実施

回収可能性技術高度化開発(エネ庁):継続実施

3. その他

・特になし

【今後の予定 (9/11~9/17)】

1. 研究坑道掘削工事関係

(1) 作業状況

立坑掘削作業

・ 東立坑(掘削深度 380.0m):維持管理

・ 換気立坑(掘削深度 380.0m):維持管理

・ 西立坑(掘削深度 365.0m):維持管理

水平坑道掘削作業

・ 深度 140m調査坑道(掘削長 186.1m):維持管理

・ 深度 250m調査坑道(掘削長 190.6m):維持管理

・ 深度 350m調査坑道(掘削長 757.1m):維持管理

2. 調査研究関係

(今後新たに発生する現地調査・現場作業のみ記載、モニタリング関係を除く)

・ ブロックスケールを対象とした物質移行試験:作業床、揚重設備設置(9/16~9/17)

・ 海陸連続三次元地質環境モデルの妥当性の検証に向けたデータ取得手法の高度化(産業技術総合研究所):浜里地区の調査孔におけるデータ取得(9/14~16 予定)

3. その他

・特になし

以上